

第2章 世界規模で見る国際会議の動向

	本章で使用する「UIA 国際会議統計」について	14 頁
1	大陸別 国際会議の開催状況	15 頁
2	国・地域別 国際会議の開催状況①（世界全体での比較）	16 頁
3	国・地域別 国際会議の開催状況②（アジア・オセアニア域内での比較）	17 頁
4	都市別 国際会議の開催状況①（世界全体での比較）	18 頁
5	都市別 国際会議の開催状況②（アジア・オセアニア域内での比較）	19 頁

	本章で使用する「ICCA 国際会議統計」について	20 頁
6	大陸別 国際会議の開催状況	21 頁
7	国・地域別 国際会議の開催状況①（世界全体での比較）	22 頁
8	国・地域別 国際会議の開催状況②（アジア・オセアニア域内での比較）	23 頁
9	都市別 国際会議の開催状況①（世界全体での比較）	24 頁
10	都市別 国際会議の開催状況②（アジア・オセアニア域内での比較）	25 頁

本章で使用する「UIA 国際会議統計」について

本節は、UIA（国際団体連合：Union of International Associations）が発行している国際会議統計資料を基に作成されています。同統計は、以下の選定基準に基づいて集計されています。

【UIA 国際会議統計の選定基準】 ※以下は UIA が公表している統計のうちタイプ A とタイプ B の会議の選定基準となります。

UIA が公表している国際会議統計の選定基準は以下のとおりであり、当該条件を満たす会議が UIA 国際会議統計に反映されます。

- (1) 国際機関・国際団体（UIA に登録されている機関・団体）の本部が主催又は後援した会議
- ① 参加国数 開催国を含む3ヶ国以上
 - ② 開催期間 1日以上

※但し、主催者が国際機関・国際団体であるか否かについては、組織の目的、会員、活動内容等の情報を総合的に勘案し、UIA が判断します。また、主催者が「国際機関・国際団体」でないと判断された場合でも、会議名、展示会併設の有無、事務局の有無等の情報を総合的に勘案し、(1) に該当する国際会議とみなされる場合もあることが判明しています。

又は

- (2) 国内団体もしくは国際団体支部等が主催した会議
- ① 参加者数 300 名以上（うち 40%以上が主催国以外の参加者）
 - ② 参加国数 開催国を含む5ヶ国以上
 - ③ 開催期間 3日以上

UIAでは、当該年の国際会議統計の発表後も、随時、情報の更新・修正を行っており、公表数値は「暫定値」としてとしています。ただし、修正後の数値が全て公開されているわけではないことから、本章では、UIAが各当該年に発表した「暫定値」を継続して掲載しています。

UIA（国際団体連合：Union of International Associations）

UIA は、1907 年にベルギー・ブリュッセルで設立された非営利・非政府の団体。7 万を超える組織団体等に関わる情報の調査・収集・分析を行っており、その一環として、「UIA 国際会議統計」を毎年6月に発表している。

1

大陸別 国際会議の開催状況

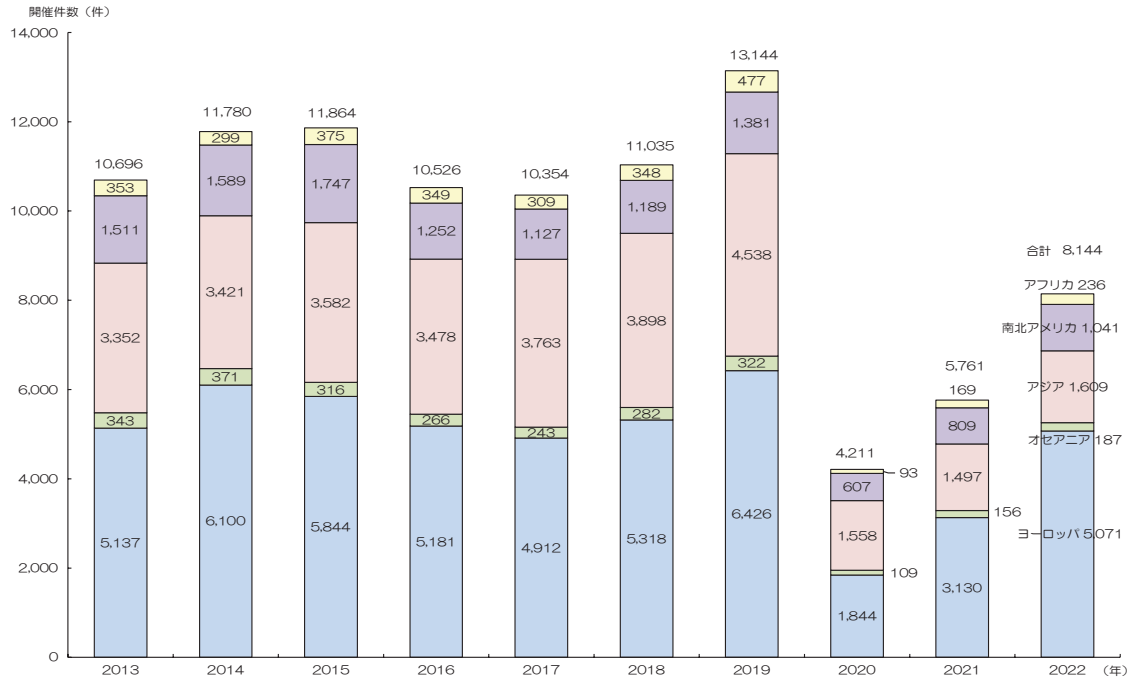
－ 開催件数シェア最大のヨーロッパが回復でも先行 －

【UIA 国際会議統計】

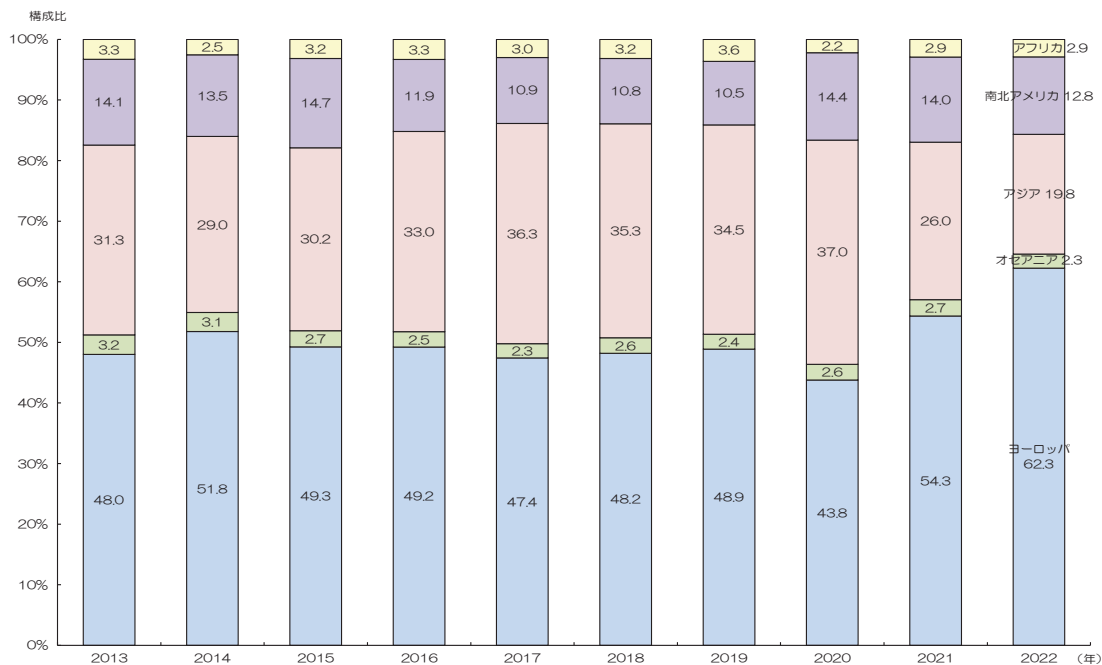
UIA 統計による 2022 年の国際会議開催件数は前年比 41.4%増の 8,144 件（オンラインやハイブリッドを含む）であった。開催件数と構成比を大陸別に見ると、1 位ヨーロッパ（5,071 件、62.3%）、2 位アジア（1,609 件、19.8%）、3 位南北アメリカ（1,041 件、12.8%）、4 位アフリカ（236 件、2.9%）、5 位オセアニア（187

件、2.3%）の順となった。COVID-19 の影響を受けなかった 2019 年と比べると、全体としては 6 割強の件数にとどまっている一方、ヨーロッパは 2019 年の 48.9%から 62.3%へシェアを大きく拡大しているのに対し、アジアは 34.5%から 19.8%とシェアを落としている。

図表 2-1 大陸別 国際会議の開催件数（2013 年～2022 年）



図表 2-2 大陸別 国際会議の開催件数 構成比（2013 年～2022 年）



注：各年の数値は、各当該年の UIA 発表「International Meetings Statistics Report」及び UIA の地域別区分に基づき JNTO が算出した。
 注：図表 2-1、2-2 の「アジア」には、北東アジア、東南アジア、南アジア、中央アジア、中東の各地域が含まれている。但し、トルコ、キプロス、ジョージア、アルメニア、アゼルバイジャンは、「ヨーロッパ」の領域に含まれている。
 注：上記の各数値は、複数都市で開催された同一の国際会議がある場合、件数をそれぞれの都市ごとに計上している。同一の国際会議が異なる大陸で開催された場合は、該当する大陸ごとにそれぞれ計上している。
 注：構成比は小数点第二位を四捨五入して計算しているため、各構成比の合計は必ずしも 100 にならない。
 UIA 国際会議統計資料に基づき JNTO が作成

2

国・地域別 国際会議の開催状況①（世界全体での比較）

－日本は開催件数微減で第5位、アジアでは首位に－ 【UIA 国際会議統計】

UIA 統計による2022年の国際会議開催件数(上位10位)を国・地域別で見ると、1位ベルギー(648件)、2位アメリカ(583件)、3位ポルトガル(464件)となった。ベルギーでの開催件数が648件と大幅に増えて前年上位3位のアメリカ、韓国、日本を抜いてラ

ンクアップ。ポルトガルでの開催件数は、2019年の開催件数も超えトップ10入り。ヨーロッパ諸国は開催件数を増やし、上位10カ国のうち7カ国を占めた。日本は5位と前年よりランクを落としたが、アジアでは前年首位の韓国を抜き首位となっている。

図表2-3 国・地域別 国際会議の開催件数(世界全体)(2013年～2022年)〈2022年上位10位を抜粋〉

	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
ベルギー	505	851	737	953	810	857	1,094	338	385	648
アメリカ	799	858	929	702	575	616	750	438	512	583
ポルトガル	136	150	204	189	181	187	258	49	150	464
スペイン	505	513	480	423	440	456	531	96	174	462
日本	588	625	634	523	523	597	719	225	408	399
フランス	408	561	590	523	422	465	665	141	273	348
イギリス	349	355	354	266	307	333	418	186	232	329
韓国	635	636	891	997	1,297	890	1,113	256	473	326
オーストリア	398	539	383	404	591	488	417	135	228	317
ドイツ	428	439	472	390	374	305	418	162	223	265

注：各年の数値は、各当該年のUIA発表「International Meetings Statistics Report」に掲載された値を採用した。
注：上記の各数値は、複数国で開催された同一の国際会議がある場合、件数をそれぞれの国ごとに計上している。

UIA 国際会議統計資料に基づきJNTOが作成

3

国・地域別 国際会議の開催状況② (アジア・オセアニア域内での比較)

— 日本が首位に浮上、上位 10 位内の国・地域は前年と変わらず — 【UIA 国際会議統計】

UIA 統計による 2022 年の国際会議開催件数をアジア・オセアニア域内の国・地域別で見ると、1 位日本 (399 件)、2 位韓国 (326 件)、3 位シンガポール (208 件) の順となり、日本は 2011 年以降初の 1 位となった。上位 10 カ国・地域は前年と変わりなく、前

年 1 位の韓国は開催件数を約 3 割減らし 2 位、2018 年から 2020 年にかけて 3 年間連続で 1 位であったシンガポールは、前年と同じ 3 位となったが、開催件数は 5 割以上増加した。

図表 2-4 国・地域別 国際会議の開催件数 (アジア・オセアニア域内) (2013 年~2022 年) (2022 年上位 10 位を抜粋)

	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
日本	588	625	634	523	523	597	719	225	408	399
韓国	635	636	891	997	1,297	890	1,113	256	473	326
シンガポール	994	850	736	888	877	1,238	1,205	780	134	208
オーストラリア	283	287	253	197	183	222	247	86	125	146
アラブ首長国連邦	-	-	-	-	-	170	180	48	80	132
マレーシア	137	103	204	98	90	172	86	18	45	99
タイ	84	280	300	279	312	185	345	32	62	90
中国 (香港、マカオ除く)	210	193	144	131	108	132	193	39	74	77
インド	87	79	88	72	71	80	87	24	37	53
台湾	58	57	43	32	30	32	55	20	34	51

注：各年の数値は、各当該年の UIA 発表「International Meetings Statistics Report」に掲載された値及び UIA の地域別区分を採用した。

注：上記の各数値は、複数国で開催された同一の国際会議がある場合、件数をそれぞれの国ごとに計上している。

注：上記の「-」は数値不明を表す。

UIA 国際会議統計資料に基づき JNTO が作成

4

都市別 国際会議の開催状況① (世界全体での比較)

－ 上位都市の多くが前年から開催件数を伸ばす中、東京は5位に － 【UIA 国際会議統計】

UIA 統計による2022年の国際会議開催件数を都市別で見ると、ブリュッセルが前年に続き1位で開催件数も約8割増の570件となった。前年8位のリスボンも開催件数を大幅に増やし2位に、ウィーンも4位から3位に、ジュネーブが9位から6位に、ランク外だったマドリードやバルセロナも10位以内に浮上するなどヨーロッパの

都市での開催件数の増加が目立ち、上位10位以内のヨーロッパの都市における開催件数が全都市の合計件数(8,144件)の約2割を占める結果となった。前年3位の東京は開催件数を2割強減らし5位に後退した。

図表2-5 都市別 国際会議の開催件数(世界全体)(2013年~2022年)〈2022年上位10位を抜粋〉

	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
ブリュッセル	436	787	665	906	763	734	963	290	319	570
リスボン	72	106	147	142	135	146	204	20	94	336
ウィーン	318	396	308	304	515	404	325	109	195	255
シンガポール	994	850	736	888	877	1,238	1,205	780	134	208
東京	228	228	249	225	269	325	305	122	258	201
ジュネーブ	126	173	172	162	158	145	173	77	87	166
マドリード	165	200	140	159	159	201	215	22	37	154
ロンドン	144	125	126	98	166	186	217	101	101	148
バルセロナ	195	193	187	182	193	152	160	44	67	147
ソウル	242	249	494	526	688	439	609	150	265	136

注：各年の数値は、各当該年のUIA発表「International Meetings Statistics Report」に掲載された値を採用した。
注：上記の各数値は、複数都市で開催された同一の国際会議がある場合、件数をそれぞれの都市ごとに計上している。

UIA 国際会議統計資料に基づき JNTO が作成

5

都市別 国際会議の開催状況② (アジア・オセアニア域内での比較)

— 東京は2位、シンガポールが再び1位、ソウルが3位に後退— 【UIA 国際会議統計】

UIA 統計による2022年の国際会議開催件数をアジア・オセアニア域内の都市別で見ると、シンガポールが2020年以前に数は大きく及ばないものの昨年よりも件数を増やし、1位に復帰。東京は件数を2割ほど減らしたものの、前年同様2位となった。

前年トップのソウルは件数が半減し、3位に後退。前年はランク外だったクアラルンプール、アブダビ、メルボルン、台北は件数を大きく増やし上位10位内にランクインしたが、前年9位の京都は2022年はランク外となった。

図表2-6 都市別 国際会議の開催件数 (アジア・オセアニア域内) (2013年~2022年) (2022年上位10位を抜粋)

	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
シンガポール	994	850	736	888	877	1,238	1,205	780	134	208
東京	228	228	249	225	269	325	305	122	258	201
ソウル	242	249	494	526	688	439	609	150	265	136
ドバイ	-	-	-	-	-	111	84	30	67	73
バンコク	55	189	242	211	232	121	293	22	47	59
クアラルンプール	84	50	140	60	54	96	50	14	26	59
アブダビ	-	-	-	-	-	56	92	17	13	58
メルボルン	73	62	46	36	31	31	42	16	17	40
台北	39	38	35	25	21	22	41	11	26	39
仁川	25	30	19	53	66	70	56	14	52	38

注：各年の数値は、各当該年のUIA発表「International Meetings Statistics Report」に掲載された値及びUIAの地域別区分を採用した。

注：上記の各数値は、複数都市で開催された同一の国際会議がある場合、件数をそれぞれの都市ごとに計上している。

注：上記の「-」は数値不明を表す。

UIA 国際会議統計資料に基づき JNTO が作成

本章で使用する「ICCA 国際会議統計」について

本節は、ICCA（国際会議協会：International Congress and Convention Association）が発行している国際会議統計資料を基に作成されています。同統計は、以下の選定基準に基づいて集計されています。

【ICCA 国際会議統計の選定基準】

ICCA が公表している国際会議統計の選定基準は以下のとおりであり、当該条件を満たす会議が ICCA 国際会議統計に反映されます。

- (1) 参加者総数：50 名以上
- (2) 開催期間：定期的で開催（1 回のみ開催した会議は除外）
- (3) 開催国について：3 カ国以上で会議のローテーションがある
(2 カ国間会議、政府系会議、国連主催の会議は除外)

ICCAでは、当該年の国際会議統計の発表後、随時過去にさかのぼり、会議の情報を収集しています。そのため、国際会議開催件数はいずれの年も「暫定値」であり、「確定値」は存在しません。本節では、作成時における暫定値を掲載しています。

ICCA（国際会議協会：International Congress and Convention Association）

ICCA は、1963 年にオランダのアムステルダムで設立された非営利・非政府の団体。約 100 カ国の 1,000 以上の団体からなり、業界の国際的な交流と会員の地位向上を主な目的としている。「ICCA Statistics Report」を毎年発表している。

6

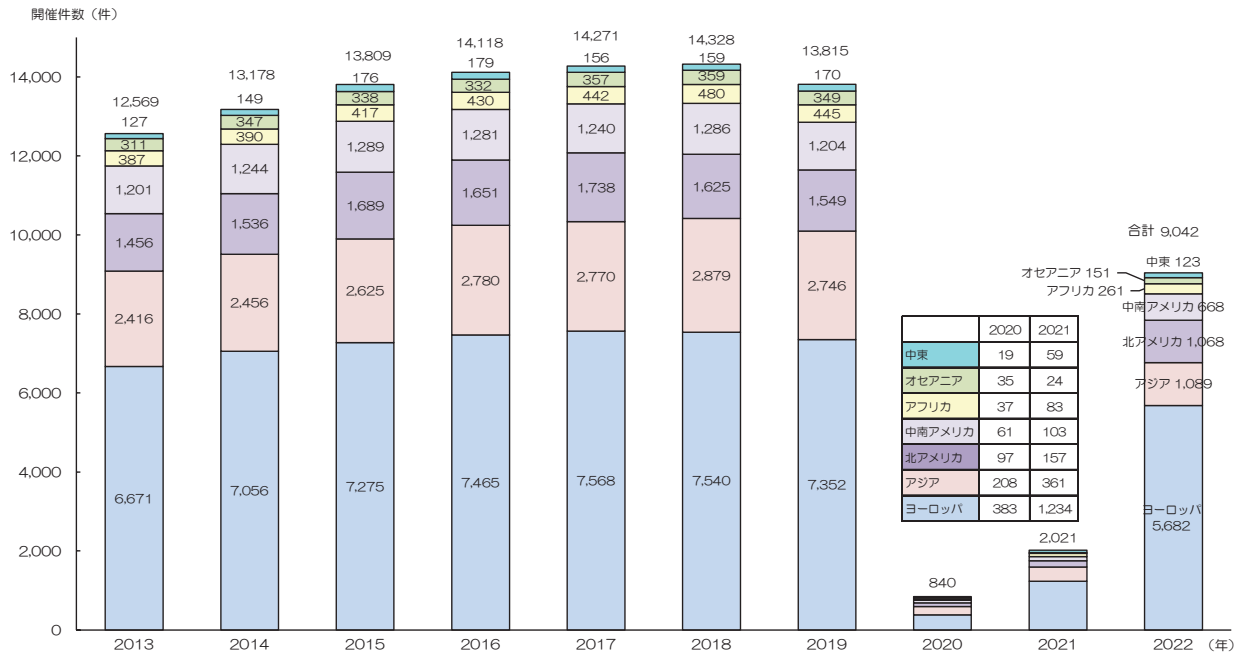
大陸別 国際会議の開催状況

ー 過去2年間から件数増、全体では19年比約7割まで回復ー 【ICCA 国際会議統計】

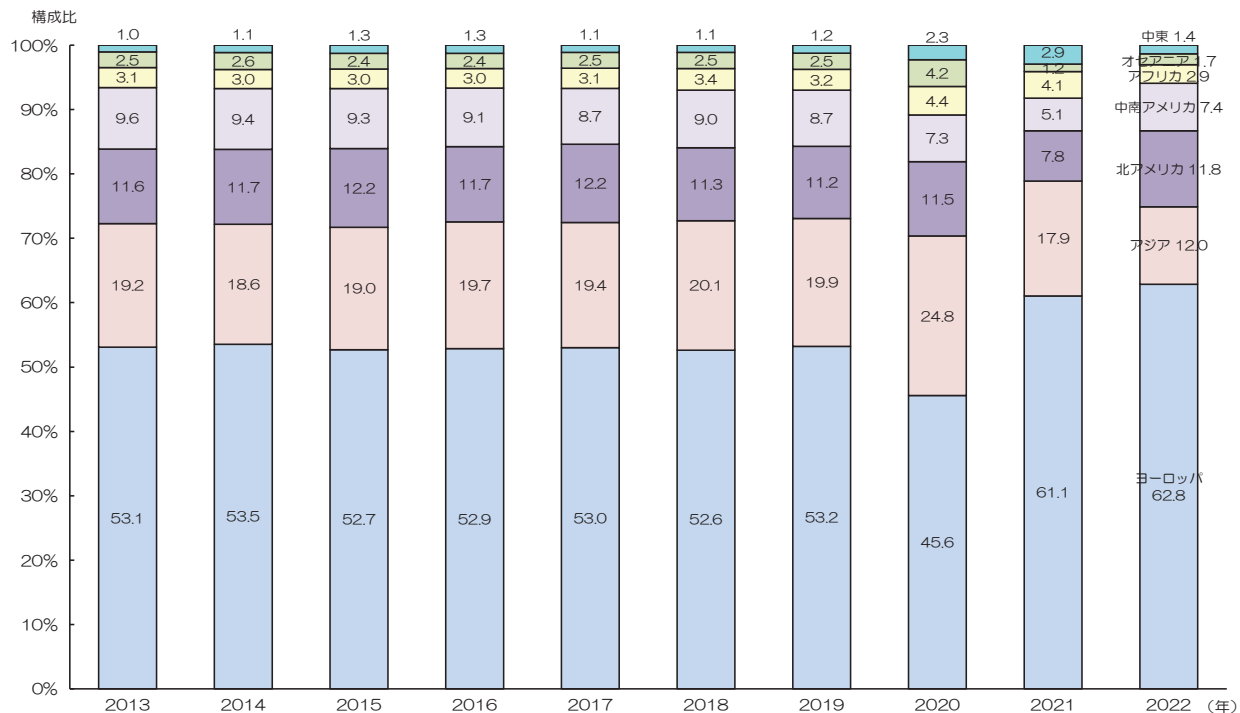
ICCA 統計による2022年の国際会議開催件数（ハイブリッド開催件数を含む）は前年比約4.5倍の9,042件と大幅に増加し、2019年の開催件数の約65%まで回復した。2022年の開催件数と構成比を大陸別にみると1位ヨーロッパ（5,682件、62.8%）、2位アジア

（1,089件、12.0%）、3位北アメリカ（1,068件、11.8%）の順であるが、開催件数が2019年比で約7~8割まで回復しているヨーロッパ、北アメリカに対し、アジアの開催件数は2019年比約4割に留まっており、アジアの構成比も縮小した。

図表2-7 大陸別 国際会議の開催件数（2013年~2022年）



図表2-8 大陸別 国際会議の開催件数 構成比（2013年~2022年）



出典：「ICCA Statistics Report (2013~2022)」

注：図表2-7、2-8の「アジア」には、ICCAの地域別区分に従い、北東アジア、東南アジア、南アジア、中央アジア、コーカサスの各地域が含まれている。但し、ジョージアは、「ヨーロッパ」の領域に含まれている。

注：ICCAでは、国際会議の件数を過去に遡って随時更新している。本図表には作成時に把握した暫定値を掲載した。

ICCA 国際会議統計資料に基づき JNTO が作成

7

国・地域別 国際会議の開催状況①（世界全体での比較）

－ 欧米が上位 10 位を独占、日本は 12 位－

【ICCA 国際会議統計】

ICCA 統計による 2022 年の国際会議開催件数(上位 15 位)を国・地域別で見ると、1 位アメリカ(690 件)、2 位スペイン(528 件)、3 位イタリア(522 件)、4 位ドイツ(484 件)、フランス(472 件)、イギリス(449 件)の順となっており、欧米が上位を占めている。

欧米以外では日本が唯一 15 位以内の 12 位に入っている。ハイブリッド開催会議の割合を見ると、上位国のうち欧米諸国では概ね 10%～20%台であるが、日本では 6 割以上を占めている。なお、前年と比較してその割合は減少しており、通常の開催形式に戻りつつある。

図表 2-9 国・地域別 国際会議の開催件数(世界全体)(2013～2022 年)〈2022 年上位 15 位を抜粋〉

	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
アメリカ	963	1,044	1,155	1,113	1,099	1,084	986	59 (5)	107 (58)	690 (187)
スペイン	503	555	570	602	630	651	614	34 (4)	118 (60)	528 (86)
イタリア	508	550	594	563	587	594	595	28 (8)	92 (57)	522 (107)
ドイツ	729	724	702	771	758	716	745	43 (8)	96 (50)	484 (85)
フランス	580	611	614	602	577	622	615	29 (5)	105 (55)	472 (82)
イギリス	590	649	670	706	680	635	592	18 (1)	57 (35)	449 (114)
ポルトガル	260	218	291	319	313	329	355	13 (0)	68 (37)	294 (42)
オランダ	306	332	355	394	335	401	367	21 (1)	37 (21)	253 (49)
ベルギー	247	227	251	240	239	285	248	17 (5)	68 (34)	234 (38)
カナダ	320	297	339	325	399	349	348	12 (1)	19 (15)	233 (57)
オーストリア	224	294	274	297	303	266	238	20 (4)	52 (29)	232 (45)
日本	413	418	434	484	460	516	530	29 (12)	66 (63)	228 (147)
ギリシャ	115	176	173	176	163	190	211	12 (3)	50 (27)	185 (41)
スウェーデン	241	258	232	287	294	274	242	10 (4)	31 (14)	179 (36)
スイス	218	240	219	222	255	224	229	15 (2)	54 (30)	175 (34)

※2020 年以降の下段の()内の数は「ハイブリッド」会議の件数(内数)

出典：「ICCA Statistics Report (2013～2022)」

注：ICCA では、国際会議の件数を過去に遡って随時更新している。本図表には作成時に把握した暫定値を掲載した。

ICCA 国際会議統計資料に基づき JNTO が作成

8

国・地域別 国際会議の開催状況② (アジア・オセアニア域内での比較)

—各国・地域で前年より大幅増、日本は域内首位—

【ICCA 国際会議統計】

ICCA 統計による 2022 年の国際会議開催件数をアジア・オセアニア域内の国・地域別 (上位 15 位) で見ると、各国・地域も前年より開催件数を大幅に増やす中、日本は 228 件で 1 位となった。以下、2 位韓国 (162 件)、3 位オーストラリア (118 件)、4 位が前回 1

位の中国 (109 件) となった。ハイブリッド開催会議の割合を見ると、日本、中国、台湾など東アジアの国・地域では約 5~8 割とその他の国と比べて高くなっている。

図表 2-10 国・地域別 国際会議の開催件数 (アジア・オセアニア域内) (2013~2022 年) (2022 年上位 15 位を抜粋)

	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
日本	413	418	434	484	460	516	530	29 (12)	66 (63)	228 (147)
韓国	299	295	319	310	326	302	253	36 (24)	67 (61)	162 (85)
オーストラリア	248	290	271	237	280	282	275	24 (3)	19 (18)	118 (42)
中国 (香港、マカオ除く)	475	472	475	546	480	520	545	20 (13)	99 (81)	109 (80)
シンガポール	167	138	165	167	164	158	152	5 (4)	23 (20)	101 (31)
台湾	151	197	175	181	174	182	163	29 (18)	24 (19)	90 (71)
タイ	149	133	167	189	185	215	171	17 (7)	11 (9)	81 (27)
マレーシア	119	154	143	137	128	148	142	11 (3)	4 (4)	69 (27)
インド	149	138	163	172	197	168	163	20 (1)	12 (6)	68 (21)
インドネシア	120	92	100	122	114	138	104	9 (2)	8 (7)	43 (13)
イスラエル	48	32	51	40	42	50	51	4 (1)	4 (4)	30 (6)
ベトナム	64	61	56	65	75	62	90	6 (3)	3 (1)	30 (9)
ニュージーランド	57	50	53	76	59	68	63	10 (1)	5 (4)	28 (13)
香港	102	115	138	122	139	145	92	6 (3)	12 (10)	15 (12)
フィリピン	52	58	79	75	76	74	70	4 (0)	4 (3)	13 (6)

※2020 年以降の下段の () 内の数は「ハイブリッド」会議の件数 (内数)

出典：「ICCA Statistics Report (2013~2022)」

注：図表 2-10 で取り上げた「アジア」の領域は、ICCA の地域別区分による。

注：ICCA では、国際会議の件数を過去に遡って随時更新している。本図表には作成時に把握した暫定値を掲載した。

ICCA 国際会議統計資料に基づき JNTO が作成

9

都市別 国際会議の開催状況①（世界全体での比較）

－ 上位をヨーロッパの都市が独占 東京は41位 －

【ICCA 国際会議統計】

ICCA 統計による2022年の国際会議開催件数を都市別で見ると、上位をヨーロッパの都市が占め、圧倒的な優位を保っている。各都市とも前年より大幅に件数が増え、1位のウィーンは、COVID-19の影響を受けていない2019年の件数を上回る件数となっている。日

本の都市では、東京が開催件数39件で41位となった。前年と比べると増加しているが、2019年比では約3割に留まり、ハイブリッド開催会議の割合もヨーロッパの各都市と比べ高くなっている。

図表2-11 都市別 国際会議の開催件数（世界全体）（2013～2022年）〈2022年上位10位+東京を抜粋〉

順位		2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
1	ウィーン	158	197	178	199	206	188	150	11 (2)	35 (22)	162 (34)
2	リスボン	124	106	149	154	154	157	197	6 (0)	33 (26)	144 (24)
3	パリ	222	251	218	211	221	224	241	9 (2)	27 (14)	134 (32)
4	バルセロナ	159	171	179	197	217	182	166	8 (1)	27 (15)	133 (23)
5	プラハ	137	123	139	142	169	153	147	8 (2)	18 (15)	129 (23)
6	マドリード	134	162	140	147	148	169	161	8 (2)	34 (21)	128 (26)
7	ベルリン	159	196	190	187	204	189	185	10 (3)	19 (11)	113 (25)
8	アテネ	56	92	87	82	85	104	113	11 (2)	34 (17)	109 (26)
9	ブリュッセル	114	130	131	113	100	125	88	7 (2)	41 (18)	108 (19)
10	ロンドン	181	199	204	186	217	174	152	5 (1)	15 (10)	106 (33)
41	東京	102	106	106	124	118	133	136	5 (1)	9 (9)	39 (27)

※2020年以降の下段の（ ）内の数は「ハイブリッド」会議の件数（内数）

出典：「ICCA Statistics Report (2013～2022)」

注：ICCAでは、国際会議の件数を過去に遡って随時更新している。本図表には作成時に把握した暫定値を掲載した。

ICCA 国際会議統計資料に基づき JNTO が作成

10

都市別 国際会議の開催状況② (アジア・オセアニア域内での比較)

ー 上位20位に日本の4都市がランクイン ー

【ICCA 国際会議統計】

ICCA 統計による2022年の国際会議開催件数をアジア・オセアニア域内の都市別で見ると、各都市とも大幅に開催件数を増やし、COVID-19の影響を受ける前の2019年以前も1位の常連であったシンガポールが1位(101件)となった。以下、2位ソウル(66

件)、3位台北(55件)、4位バンコク(50件)の順。2019年に2位であった東京は5位(39件)、同11位であった京都が9位(29件)となった。札幌、横浜は16位(15件)で、日本の4都市が上位20位にランクインする結果となった。

図表2-12 都市別 国際会議の開催件数(アジア・オセアニア域内)(2013~2022年)〈2022年上位20位を抜粋〉

	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
シンガポール	167	138	165	167	164	158	151	5 (4)	23 (20)	101 (31)
ソウル	144	148	147	150	164	134	117	13 (10)	17 (16)	66 (34)
台北	99	124	125	106	99	103	101	18 (13)	15 (12)	55 (48)
バンコク	95	82	115	125	127	149	131	9 (3)	8 (6)	50 (17)
東京	102	106	106	124	118	133	136	5 (1)	9 (9)	39 (27)
クアラルンプール	72	87	84	73	76	78	94	6 (2)	2 (2)	35 (16)
シドニー	97	82	92	68	87	94	91	7 (0)	1 (1)	34 (19)
メルボルン	57	69	55	63	67	70	58	9 (3)	4 (3)	31 (7)
京都	52	55	57	62	51	60	67	1 (0)	9 (9)	29 (18)
濟州島	44	49	45	41	49	45	23	6 (4)	22 (18)	27 (14)
パリ	53	46	44	56	49	43	45	4 (0)	2 (2)	24 (7)
ニューデリー	39	43	46	51	60	43	40	2 (0)	2 (1)	20 (4)
北京	138	126	120	150	103	116	91	2 (1)	11 (9)	19 (14)
釜山	31	35	32	32	32	40	32	6 (3)	8 (7)	17 (11)
上海	83	98	76	107	87	91	90	0 (0)	16 (12)	16 (10)
ブリスベン	24	44	31	38	29	34	42	3 (0)	4 (4)	15 (6)
香港	102	114	137	122	139	145	92	6 (3)	12 (10)	15 (12)
札幌	17	21	17	22	27	20	25	4 (2)	2 (2)	15 (11)
横浜	21	24	27	22	18	24	18	2 (2)	4 (4)	15 (12)
テルアビブ	15	11	14	19	15	20	20	3 (1)	1 (1)	14 (2)

※2020年以降の下段の()内の数は「ハイブリッド」会議の件数(内数)

出典:「ICCA Statistics Report (2013~2022)」

注:図表2-12で取り上げた「アジア」の領域は、ICCAの地域別区分による。

注:ICCAでは、国際会議の件数を過去に遡って随時更新している。本図表には作成時に把握した暫定値を掲載した。

ICCA 国際会議統計資料に基づき JNTO が作成